

# 会員訪問ツアー初開催

## ダイセーGなど視察



JTDO

日本トラックドライバーク育成機構（JTDO、酒井

誠代表）は3日、初の会員企業訪問ツアーを開催した。他社の取り組みや活動の視察を目的に新型コロナウイルス前から準備を進めていた企

で、感染状況が収束傾向にあることから実現。併せて会員間の交流を促進するため、全国から9社・団体関係者13人が愛知県に集まった。会員は名古屋駅に集合後、初めに食料品関連の幹

ダイセー倉庫運輸の倉庫を見学

線輸送を行うダイセーエブリー二十四（田中孝昌社長、愛知県一宮市）を訪問。田中社長が社内の設備を案内しながら、人材育成を徹底したりコミュニケーションの場を増やしたりする経営にかじを切った経緯や、コロナ禍を受けて考え方を根本的に変えようとする2021年に経営理念をゼロから見直した内容を説明。それを基に新たな取り組みを加速させることへの意気込みなどを語った。

次に訪れたダイセー倉庫運輸（小牧市）では、ポリーマーの輸送に特化することで業績を伸ばした吉田憲三社長が就任時から掲げる「朝起きたら行きたくない会社」への取り組みや、倉庫設備を紹介。力を入れていく品質安全教育室主導の活動について、安全品質向上の秘訣として、全てをオ

ープンにすることで当事者意識を高める手法を紹介した。名備運輸（同市）では、丸川靖彦社長が次世代への継承を踏まえてこだわりのリノベーションを行った本社社屋を披露。今年50周年を迎え、これまでに築いた災害に強い会社や健康経営に注力する方針を明確化し、更にドローン（小型無人機）輸送など新たな物流へと挑戦していく姿勢を示した。酒井代表は、ツアー開始に当たり「コロナ禍がここまで拡大するとは想像できなかったが、以前のように回復するには5年かかると見ていた。現時点で2年が経過したが、この段階で企業訪問の機会を得られたことに感謝している」と謝辞。

（梅本誠治）